

問1 ある港の貿易統計において、輸出総額が10兆7000億円を超えて国内1位であり、その輸出項目の上位3品目が自動車、自動車部品、内燃機関となっている場合、このような貿易構造が成立している背景として正しいものを選びなさい。(2018年 愛知公立入試 類似)

1. 中京工業地帯の中核を成す自動車産業の集積が、港の輸出データに強く反映されているため。
2. 阪神工業地帯における金属工業の発展により、船体やエンジンなどの大型機械の輸出が増えたため。
3. 北九州工業地帯において、鉄鋼業から自動車製造業への産業構造の転換が急速に進んだため。
4. 関東地方の巨大な消費市場に向けた輸入の中継地点として、周辺の加工貿易が盛んになったため。

問2 フォッサマグナの西側に位置する赤石山脈周辺の地域では、その自然環境を活かした産業が営まれています。この地域の地形や気候の特色と、そこで発達した産業の組み合わせとして、最も適切な説明を選びなさい。(2015年 佐賀公立入試 類似)

1. 標高が高く険しい一方で降水量が多いことから、豊富な森林資源を利用した林業が盛んである。
2. 火山灰が積もった広大な台地が広がっているため、水はけの良さを活かした畑作が盛んである。
3. 冬の積雪が非常に多く平地が限られているため、寒冷な気候に強い米作りが盛んである。
4. なだらかな傾斜地が多く夏でも涼しいため、大消費地向けの乳牛の飼育が盛んである。

問3 東京都中央卸売市場におけるレタスの月別出荷量を調査した資料において、6月から9月にかけての出荷量が突出して多く、反対に平地である茨城県や静岡県からの出荷が減少している地域があります。この地域における農業の特徴として最も適切な説明はどれですか。(2018年 千葉県公立入試 類似)

1. 長野県などの標高が高い地域で、夏の涼しい気候を利用して出荷時期を調整する高冷地農業が行われている。
2. 宮崎県などの温暖な地域で、冬の暖かい気候とビニールハウスを利用して出荷を早める促成栽培が行われている。
3. 茨城県などの大都市に近い地域で、輸送コストを抑えて新鮮な野菜を届ける近郊農業が行われている。
4. 北海道などの広大な土地を利用して、機械を用いた大規模な土地利用型農業が行われている。

問4 合掌造りの集落は、その独特な景観と伝統的な生活様式が評価され、世界文化遺産に登録されています。この建築様式が見られる地域の気候や地理的特徴について述べた文として、正しいものはどれですか。(2017年 奈良公立入試 類似)

1. 冬に北西から吹く季節風の影響で、大量の雪が降る地域である。
2. 年間を通じて降水量が少なく、乾燥に強い建築が求められる地域である。
3. 季節風を遮る高い山がないため、年間を通じて温暖で平坦な土地が広がる地域である。
4. 梅雨の時期に長期間雨が降り続くため、床を非常に高くして浸水を防ぐ必要がある地域である。

問5 中部地方の内陸部に位置する「中央高地」の地形的特徴とその利用について述べた文として、正しいものはどれですか。(2023年 宮城県公立入試 類似)

1. 飛騨・木曾・赤石の3つの山脈に囲まれた盆地が点在し、山沿いの扇状地では果樹園が多く見られる。
2. 日高山脈などの険しい山々に囲まれた盆地が多く、扇状地では機械化による大規模な米作りが行われている。
3. 飛騨山脈などの火山が連なる高原地帯であり、水はけの悪い土地を利用して茶の栽培が盛んに行われている。
4. 赤石山脈から流れる川の河口付近に広がる広大な三角州を利用して、水はけのよさを活かしたブドウの栽培が行われている。

問6 山梨県、群馬県、岐阜県、富山県などに囲まれた本州中央部の内陸県で、平均標高が1000メートルを超える地形的特徴を持つ長野県において、その環境を活かして生産が盛んに行われている農産物の組み合わせとして正しいものはどれですか。(2018年 高知公立入試 類似)

1. レタスやハクサイなどの高原野菜
2. サトウキビやパイナップルなどの亜熱帯作物
3. ピーマンやナスなどの促成栽培による夏野菜
4. みかんやオリーブなどの耐乾燥性果樹

問7 愛知県や静岡県を含む東海地方の工業統計において、製造品出荷額の割合が他県に比べて突出して高い「輸送用機械器具」の製造に関する説明として、最も適切なものはどれですか。(2017年 奈良公立入試 類似)

1. 自動車の生産を中心としており、多くの部品工場が周辺に集まることで効率的な生産体制が築かれている。
2. 明治時代から続く繊維工業の伝統を引き継ぎ、現在も衣類や布製品の出荷額が産業の半分以上を占めている。
3. 高度な技術を要する電子部品や半導体の製造が中心であり、内陸部のIC付近に工場が集中している。
4. 海外から輸入した鉄鉱石や石炭を加工する製鉄所が沿岸部に集まり、金属製品の出荷額が最大となっている。

答え合わせ・解説

- 問1** **答え 1**
中京工業地帯の中核を成す自動車産業の集積が、港の輸出データに強く反映されているため。
- 名古屋港の輸出統計に自動車関連の品目が並んでいるのは、日本最大の工業地帯である中京工業地帯の産業構造を反映しているからです。特に豊田市周辺を中心とした自動車製造の集積により、完成車だけでなく部品やエンジンまでもがこの港から世界各地へ送り出されています。工業地帯の特色と港の貿易品目が密接に関連していることを理解する必要があります。
- 問2** **答え 1**
標高が高く険しい一方で降水量が多いことから、豊富な森林資源を利用した林業が盛んである。
- 赤石山脈は南アルプスとも呼ばれ、日本でも屈指の標高を誇る険しい山岳地帯です。この地域は雨が多い気候条件を備えており、スギやヒノキなどの樹木がよく育つため、古くからその斜面を利用した林業が行われてきました。他の選択肢にあるような広大な台地やなだらかな傾斜地は、この山脈の主な特徴とは一致しません。
- 問3** **答え 1**
長野県などの標高が高い地域で、夏の涼しい気候を利用して出荷時期を調整する高冷地農業が行われている。
- 資料にある「6月から9月にレタスの出荷がピークを迎える」という特徴は、高冷地における抑制栽培の典型的なパターンです。長野県などの高冷地は、夏でも気温が上がりにくいという気候的利点を持っており、平地（茨城県や静岡県など）の出荷が減る端境期（はざかいき）を狙って出荷することで、高い利益を得る工夫をしています。この地理的背景を理解することが重要です。
- 問4** **答え 1**
冬に北西から吹く季節風の影響で、大量の雪が降る地域である。
- 白川郷などが位置する日本海側の気候区では、冬になると湿った北西の季節風が奥羽山脈や飛騨山脈などの高い山々にぶつかると、大量の雪を降らせます。合掌造りは、このような過酷な気象条件の中で、身近にある茅（かや）や木材を利用して編み出された、地域の知恵が詰まった住居形式です。
- 問5** **答え 1**
飛騨・木曾・赤石の3つの山脈に囲まれた盆地が点在し、山沿いの扇状地では果樹園が多く見られる
- 日本の屋根とも呼ばれる中央高地には、飛騨山脈（北アルプス）、木曾山脈（中央アルプス）、赤石山脈（南アルプス）からなる日本アルプスがそびえ立っています。これらの険しい山々に囲まれる形で長野盆地や甲府盆地などの盆地が点在しています。盆地の縁には、川が山地から平地へ出るところに土砂が堆積してできた「扇状地」が発達しています。扇状地は稲作には不向きな水はけのよい土地であるため、果樹園としての利用が非常に盛んです。日高山脈は北海道、茶の栽培は主に静岡県や鹿児島県、三角州は河口付近の低地であるため、中央高地の説明としては不適切です。
- 問6** **答え 1**
レタスやハクサイなどの高原野菜
- 長野県は周囲を高い山々に囲まれた内陸県であり、八ヶ岳山麓などの標高が高い地域（高冷地）では、夏の涼しさを好む野菜の栽培が適しています。特にレタス、ハクサイ、キャベツといった野菜は「高原野菜」と呼ばれ、全国的な産地となっています。統計的に平均標高が1位であるという事実は、こうした高冷地農業の基盤となっていることを示しています。
- 問7** **答え 1**
自動車の生産を中心としており、多くの部品工場が周辺に集まることで効率的な生産体制が築かれている。
- 東海地方、特に愛知県は自動車産業が非常に盛んであり、完成車メーカーだけでなく、数多くの関連部品工場が集積しています。2014年の統計資料などにおいても、愛知県や静岡県では「輸送用機械器具（自動車など）」が製造品出荷額の大きな割合を占めており、日本の重工業を支える中心地となっています。選択肢にある繊維工業はかつての主要産業ですが、現在は輸送用機械にその座を譲っています。